

## は　じ　め　に

放送教育開発センターは、昭和53年10月に設置された国立大学共同利用機関である。本センターは設置以来「大学放送教育実験番組・研究開発番組」の制作・放送や「放送利用の大学公開講座」の実施等をとおして、放送を利用した大学教育の新分野の研究開発と大学教育の開放の促進等を行ってきた。放送利用の大学教育は、放送番組（テレビ及びラジオ）、印刷物（テキスト等）、面接・通信による学習指導等の多様な媒体と方法の総合的な活用によって学習者を時間や場所等の制約から解放し、大学教育における弾力的な学習とその向上を図ろうとするものである。

放送利用の大学公開講座（放送公開講座）は、本センターが大学及び番組制作放送機関（放送局）と共同して行っている研究開発事業で、放送を利用して行う大学教育の内容・方法等の研究開発、大学教育の開放の促進及び大学における教育方法の改善に資することを目的としている。

本事業は、昭和53年度以来、本センターが各大学に依頼して実施しており、放送番組の制作及び放送は、財団法人民間放送教育協会に委託している。当初は、東北、金沢及び広島の3大学で実施されたが、遂時、実施大学が拡大され、昭和62年度は北海道大学、東北大学、新潟大学、金沢大学、名古屋大学、大阪大学、広島大学、熊本大学、信州大学、高知医科大学（四国地区）、琉球大学（沖縄地区）の11大学で、テレビ11科目、ラジオ10科目、合計21科目の講座を実施した。

本報告書は、昭和62年度の放送利用の大学公開講座に関する実施報告書であり、Ⅰで講座全体の実施の概要を、Ⅱで各大学及び放送局からの実施報告を、Ⅲで受講生に対するアンケート調査等の調査研究結果を掲載している。またⅣでは、第5回放送利用の大学公開講座シンポジウムの実施報告を掲載している。このシンポジウムは、放送利用の大学公開講座の向上を図るため、本センター及び財団法人民間放送教育協会の主催で、昭和62年度は熊本大学及び熊本放送を主管機関として実施された。

なお、これまで『放送利用の大学公開講座に関する実施報告書』は、毎年度、いわゆ

る「白表紙」の体裁で発行してきたが、本年度よりセンターが統一様式の研究報告書を刊行することになったのに合わせて、昭和62年度分の報告書より、その一環として発行することとした。また、本報告書は、実施大学及び制作・放送機関からの報告等をもとにしてセンターが取りまとめたものであるが、各大学はこれとは別に独自の実施報告書を刊行している。併せて、ご参照いただければ幸いである。

放送利用の大学公開講座は、内容面でも組織面でも質的な発展期にさしかかってきているといえよう。これまで本事業に払われた関係各位の御尽力に切に感謝するとともに、今後の本事業の一層の発展のためにさらなるご協力をいただけるよう願ってやまない。

昭和63年11月

放送教育開発センター